

令和7年度

学校評価表

(中間評価・最終評価)

東広島市立河内中学校

学校教育目標	「夢と志」をもち、未来に向けて果敢に挑戦する生徒の育成	経営理念	【めざす学校像】つながりを大切に作る学校 【めざす生徒像】自立し協調して本気で取り組む生徒 ～3つの大切・3つの基本～ 【めざす教職員像】信頼される教職員 ～誠意・熱意・創意～
--------	-----------------------------	------	------------------------------------------------------------------------------------------------

評価計画				自己評価				改善策	学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)					
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	改善策	評価	コメント
							9月	1月						
確かな学力	1	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	知識・技能の習得	○授業の見える化 授業の構造化により、生徒も教師も「課題設定→学習の見通し→振り返り」を共有 ・単元構成シートの作成、活用 ・授業の流れが一目でわかるスライドや板書	「授業の内容や活動方法がよくわかる」生徒の割合	80%以上	各教科 おおむね 80%以上	各教科 82%以上	102%	4	目標を達成することができた。前回よりも数値が改善したが、前回に引き続き2学年部の割合が低い傾向がある(1年96.4%⇒93.4%、2年81.6%⇒84.8%、3年88.7%⇒90.8%)。	・研究部と連携して後期一人2枚以上のピッチシートを作成し、単元の構造化・見える化を図る。 ・生徒が今の授業で何をしているか、めあてが達成できたかを理解しやすいように「授業の流れ」を毎時間細かく黒板に示す。	A	学年によって差はあるが、教員が丁寧に取り組んでいる。
			授業で育てる学習集団づくり	○基礎・基本の定着の取組 ・個に応じた指導の充実のための「単元自由進度学習」の実践 ・基礎的事項の徹底(基補充、タブレットドリル・小テスト) ・授業や家庭学習が連動する学びを構築	「平日家庭学習を毎日90分以上している」生徒の割合	70%以上	62%	平日1時間以上 75% 休日2時間以上 58%	95%	3	目標を少し達成できなかった。平日1時間、休日2時間以上の学習時間が確保できているか、内容を細かく聞いた。平日1時間以上の学習時間はおおむね達成しているが、休日の学習時間が定着していないことが分かった。	・定期試験を中心に試験計画表を生徒に作成させる。その際、土日も含めた計画的な学習計画の作成、実施を心がける。 ・タブレットドリルの活用を促し、苦手分野の克服に努める。	B	小学校から継続的な指導が必要である。小学校と連携を図り、引き続き取り組んでいく必要がある。
				○「生徒の言葉で問いをつくる授業」の実践 ・ルールに従って問いかけを行うことにより、互いに尊重し、学習規律を作り上げる。 ○定期試験・確認テストへの計画的な取組と振り返り ・生徒に目標をもたせ、互いに協力して学習する雰囲気を作る ○生徒が自分の考えを発信する場の設定 ・河内中TEDの実施	「自分のことなどを、相手に理解してもらえるように、工夫しながら伝えることができる」生徒の割合	85%以上	68%	78%	88%	2	目標を少し達成できなかったが、前回より向上した。(1年71%⇒69%、2年63%⇒74%、3年76%⇒95%)2年生は、学年での分限スピーチや修学旅行等での発表の機会があったこと、3年生はTED発表の機会があったことが増加した要因としてあげられる。	・引き続き、総合的な学習の時間や学活等を活用して、発表機会を増やす。 ・学校行事の振り返り等、体験的な活動について、感想や自分の思いを言葉にして残す。	B	自己表現等、生徒が発表できる場を設定し、体験させることが大切である。
豊かな心	3	思いやりの心や感動する心など豊かな心を育む。	相手の大切にする礼儀・マナーの向上	○集団づくり ・「3つの大切・3つの基本」の実践と評価 学級づくり:係活動や清掃活動など、自分の役割を果たす ○生徒会による点検活動等の実施 各委員会の取組内容の充実 ○東広島スタンダードを意識した取組【小中一貫】 ○「特別の教科 道徳」の授業改善 ・道徳科授業における「生徒の言葉で問いを創る授業」の実践 ・主題解説・教科解説シートの活用	「3つの大切・3つの基本」を意識し、他人を思いやり、生命や人権を大切に生活している生徒の割合	90%以上	100%	99%	110%	4	目標を上回っている。全体が集まる場で「3つの大切・3つの基本」について細かく説明した結果、意識している生徒が増えている。	・引き続き、総合的な学習の時間や学活等を活用して、発表機会を増やす。 ・学校行事の振り返り等、体験的な活動について、感想や自分の思いを言葉にして残す。 ・全体が集まる場(朝会等)での講話 一人分たちの行動を振り返り、次の行動につなげる場をもつ。 ・委員会活動と関連付ける。 一代議員会で時間を大切にすることを実践	A	全校生徒が集まる場で繰り返し繰り返し、なぜ必要なのかを説明していることが向上に繋がっている。
				○メディア利用の適正化による基本的生活習慣の定着 ・学習する時の体の使い方について理解する ・メディアにかける時間の指導【小中一貫】 ・SNSによるデジタルモラル教育の実践(生徒対象) ・生活リズムや食生活について定期的に見直し時間の確保 ・保護者への啓発(たより、ポスター等)	「週2日以上、21時以降にメディアを使用しないようにしている」生徒の割合	95%以上	89%	91%	96%	3	目標を少し達成することができなかった。 保護者アンケート①72%②64%③88%全学年71% 生徒と保護者との間で認識の差がある。自分から進んで挨拶をすることができる生徒は増えてきているように感じるが、できていない生徒はできていない。 来校者や地域の方に対しても、気持ちのよいあいさつすることができることに課題がある。	・代議員会で「先言後礼」の徹底 一命令をする前に一言「先言後礼をしましょう」と言うことで、意識付けができていない。言葉と言わなくてもできるように段階的に取り組んでいく。 ・生活美化委員会で「あいさつ運動」の実施 一あいさつはどのようにするのかを生徒朝会で周知し、週2回あいさつ運動を実施している。 生活美化委員会だけでなく、他の生徒も巻き込みながらあいさつについて、チェックを行うことと合わせて、家庭に於いて結果の報告や啓発を行い、家庭の協力を仰ぐ。 ・小学校と連携しながら、家庭全体で一掃に取り組むことができることを検討する。	B	校内であいさつができる生徒が増えている。あいさつができていない生徒への取組みを継続して指導を行うこと。
健やかな体		基本的な生活習慣の定着や健康や安全について理解し、健やかな体をつくる。	学習姿勢の意識化	○メディア利用の適正化による基本的生活習慣の定着 ・学習する時の体の使い方について理解する ・メディアにかける時間の指導【小中一貫】 ・SNSによるデジタルモラル教育の実践(生徒対象) ・生活リズムや食生活について定期的に見直し時間の確保 ・保護者への啓発(たより、ポスター等)	「週2日以上、21時以降にメディアを使用しないようにしている」生徒の割合	70%以上	47%	58%	83%	2	目標値をかなり下回っている。保護者の回答も同様に69%と低値となっている。ただ、9月と比較すると、生徒は11%、保護者は5%増加している。試験期間に実施した生活リズムチェックでは、評価項目について69.3%の生徒が達成できている。	・引き続き、試験期間にメディアの利用について、チェックを行うことと合わせて、家庭に於いて結果の報告や啓発を行い、家庭の協力を仰ぐ。 ・小学校と連携しながら、家庭全体で一掃に取り組むことができることを検討する。	B	家庭学習との関連がある。家庭の協力が必要である。保護者に伝える必要がある。
信頼される学校	2	教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図り、生徒と向き合う時間を確保する。	コミュニティスクールの推進	○地域課題の発見と地域貢献 ・地域学習の充実・地域行事への参画 ・地域人材を活用した地域探究と情報発信 ・小中連携による系統的な学び ・学校運営協議会における情報共有 ・コミュニティスクールだよりの発行(月1回)	「地域の一員として、地域に愛着をもち地域の役に立ちたいと感じる」生徒の割合	90%以上	86%	91%	101%	3	・91%と目標値を上回った。部活動に所属している生徒や生徒会・生徒会の生徒が中心となって、地域の行事に参加した。 ・校区別に学校運営協議会の方々に参加をしてきたことで、地域の現状や歴史を教員が学ぶことができた。	・生徒会及び部活動に所属している生徒が中心となって地域行事に参加した。部活動に所属していない生徒が地域行事に参加するよう工夫する必要がある。 ・学校運営協議会の方々が生徒の思いや考え等を聞く機会を設定し、地域と生徒、学校が一緒に取り組むことを考える必要がある。	A	生徒会及び部活動がよく地域に赴き、地域の方々と関わっている。
			働き方改革の推進	○業務改善 勤務時間外の在校時間の縮減 ・業務内容や行事の見直しによる生徒と向き合う時間の確保 ・チーム力の向上(熟練による同僚性の構築) ・ICTを活用した効率的な業務の推進 ・(管理職との対話による業務改善意欲の高揚) ・定時退校日の励行とワークライフバランスの促進	「自分が掲げた目標に向かって仕事ができていると感じる」教職員の割合	90%以上	91%	100%	111%	3	・目標を達成している。 一部の教員が、仕事の優先順位を下げられ、超過勤務が続いている。	・組織としての機能を高める必要がある。教務主任、生徒指導主事、学年主任が進捗状況を把握し、チームとして取り組む必要がある。	A	職員全体が目標に向かい取り組んでいるため、もう少し高い評価でよい。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
 4...目標を上回って達成
 2...目標をやや下回って達成
 3...目標どおり達成
 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)
 A...適切である
 B...概ね適切である
 C...あまり適切でない
 D...全く適切でない